



編集委員会

山本正嘉（編集委員長）^{1) 2)} 藤田英二²⁾ 高井洋平²⁾

¹⁾鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター長 ²⁾鹿屋体育大学スポーツ生命科学系

スポーツトレーニング教育研究センター沿革

- | | |
|---|--|
| <p>平成5年（1993）
7月1日 文部省から平成5年度大学改革等調査経費として「少年期からの発達段階に応じた科学的なトレーニングと効果的な指導体制の在り方に関する調査」が示達される</p> <p>平成6年（1994）
4月1日 スポーツトレーニング教育研究センターの設置準備特別委員会が発足
5月20日 スポーツトレーニング教育研究センターが設置される。センター長事務取扱に河野真副学長が就任
10月1日 西菌秀嗣助教授が体力科学講座から学内移動</p> <p>平成7年（1995）
3月1日 金高宏文講師がコーチ学講座から学内移動
4月1日 初代センター長に會田勝教授が就任。特別研修員：西村信一教諭，研究協力校として鹿児島南高等学校・鹿屋高等学校・谷山中学校・第一鹿屋中学校・横川中学校を指定</p> <p>平成9年（1997）
3月28日 スポーツトレーニング教育研究センター棟が竣工
4月1日 第2代センター長に平田文夫教授が就任。特別研修員：池畑辰也教諭，特別研究員：陳杰上海体育学院教授
5月8日 スポーツトレーニング教育研究センター棟が竣工し記念式典を挙げる</p> <p>平成10年（1998）
4月1日 第3代センター長に大平充宣教授が就任。山本正嘉助教授が着任。特別研修員：佃省三教諭。研究協力校として鹿児島南高校・榎脇高校・南大隅高校、谷山中学校・桜島中学校・横川中学校を指定</p> <p>平成11年（1999）
4月1日 特別研修員：西園和昭教諭
5月18日 トレーニング環境シミュレータの竣工式</p> <p>平成12年（2000）
3月19、20日 第12回トレーニング科学研究会を開催
4月1日 特別研修員：石田尾行徳教諭</p> | <p>平成13年（2001）
4月1日 第4代センター長に西菌秀嗣教授が就任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・谷山中学校・花岡中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成16年（2004）
4月1日 加賀谷善教講師が着任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・花岡中学校・鹿屋東中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成18年（2006）
8月1日 第5代センター長に山本正嘉教授が就任</p> <p>平成19年（2007）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・大隅中学校・花岡中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成20年（2008）
4月1日 藤田英二講師が着任</p> <p>平成22年（2010）
4月1日 高井洋平助教が着任。研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・帖佐中学校・大隅中学校・鶴羽小学校を指定</p> <p>平成23年（2011）
4月1日 教員組織の改組により、これまでのセンター所属教員はスポーツ生命科学系に所属することとなり、その上で山本がセンター長、西菌、藤田、高井がセンター兼務担当教員となる</p> <p>平成25年（2013）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・帖佐中学校・花岡学園（花岡中学校・花岡小学校）を指定</p> <p>平成28年（2016）
4月1日 研究協力校として鹿児島南高校・南大隅高校・重富中学校・吾平中学校・花岡小学校を指定</p> <p>現在（平成28年度）の体制
山本教授（センター長）、藤田准教授、高井准教授がセンター兼務担当教員として業務を行う</p> |
|---|--|

表紙写真：2018年秋に85歳でヒマラヤ登頂を目指す三浦雄一郎さん。彼は70歳から80歳までに3回のエベレスト登頂に成功したが、本センターでは69歳時から毎年のように彼の体力測定を行い、トレーニング計画立案のための資料を提供してきた。（巻末のトレセンニュースレターに関連記事あり）

編集後記

先日閉幕した平昌オリンピックでは、日本選手が様々な種目で活躍し、爽やかな印象を残しました。筆者にとっては、多くの選手が当初の期待通りの活躍をしたことが、このような印象を受けた最大の要因ではないかと感じています。

ところで、選手が周囲の期待通りに活躍するということは、簡単なようでいて実際にはたいへん難しいことです。これまでの国際大会では、期待されたものの活躍できなかった、というケースが少なくありませんでした。

選手が実力どおりの能力を発揮するためには、自身の現在の状態をよく知る必要があります。また現状は常に変動するので、状況に応じて手を打っていくことも必要です。しかし一流選手でも、自分の現状をわかっているようでわかっていない、ということはよくあります。ギリシアの哲学者タレスは「一番難しいことは自分を知ること」という言葉を残しています。

スポーツを科学的にサポートする私たちは、選手の現状をできるだけ正確に可視化して提示することが第一の使命と考えています。それができれば、今後どうすべきかについては、選手やコーチが自ずと判断できるでしょう。このような趣旨から、本センターでは「アスリートドック」というプロジェクトを続けています。今後とも皆さまのご指導とご支援をお願いいたします。

(山本正嘉 記)

平成30年3月31日 印刷

平成30年3月31日 発行

発行者 鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

発行所 鹿屋体育大学

鹿屋市白水町1番地 (〒891-2393)

Tel 0994-46-4922

印刷所 (株)朝日印刷

鹿児島市上荒田町55-1 (〒890-0055)

Tel 099-251-2191